

平成 30 年度プロジェクト研究実績報告書

【研究課題名】	千葉市下田都市農業交流センター（下田農業ふれあい館）を活用した地域活性化に関する研究
【研究代表者】	櫻井 尚子（東京情報大学・教授）
【研究分担者】	柳田 純子（東京情報大学・准教授） 安岡 広志（東京情報大学・准教授） 藤原 丈史（東京情報大学・准教授）
【研究の目的】	<p>(1) 併設レストランの付加価値強化（マーケティング関連分野） レストラン利用者に対して「食事」以外の価値を提供することによる「地域再生マーケティング」を検討し具現化する。情報通信機器の機能活用法やセキュリティ対策に関する情報提供を行う学生ボランティア活動を試行する。</p> <p>(2) CG 技術を応用した視覚的訴求性向上（メディア関連分野） レストラン内部における視覚的訴求性向上策を検討し具現化する。学生作品を展示することによる場の活気の醸成を試行する。</p>
【研究報告】	<p>(1) 併設レストランの付加価値強化（マーケティング関連分野） 主にスマートフォンの機能活用法やセキュリティ対策に関する高齢者層からの相談を学生がボランティアで個別対応するイベントを企画した。千葉市農政センターと連携し、市政だよりを活用してイベント日時を広報した。 平成 30 年 6 月 14 日, 21 日, 11 月 29 日および 12 月 6 日の計 4 回で、のべ 23 名から相談が寄せられ、解決策を助言した。また平成 29 年度の本共同研究のなかで設置したレストラン内マグネットシート掲示板に、情報通信機器「まめ知識」ポスターを掲示し情報提供を継続した。</p> <p>(2) CG 技術を応用した視覚的訴求性向上（メディア関連分野） 現状の併設レストランの課題として、レストラン壁面が経年劣化による殺風景な雰囲気と簡素な雰囲気の点があった。そういった壁面状況を変える方向で、下田農業ふれあい館店長と学生との意見交換を行った（平成 30 年 11 月 5 日, 12 月 19 日）。 来客者に向けて CG を駆使した表現物にて、居心地感の向上、地元野菜にさらなる興味を与える提案を具現化した形で実施した（平成 31 年 1 月 16 日）。</p>
【成果の公表】	<p>(1) 大学オープンキャンパス社会情報学系の展示のなかで、地域再生マーケティングの事例として「併設レストランの付加価値強化」策をどのような経緯と手法で検討・実施したか、PDCA マネジメントサイクルに則り来場者に説明した。また上記ボランティア活動状況を本学ホームページに掲載し広報した。</p> <p>(2) 下田農業ふれあい館併設レストランの壁イメージの改良を実施し、地物野菜とその薬膳の効能などを表現した季節野菜イラストと薬膳効能を示したマグネット形式の印刷物 22 点を</p>

展示した。

【連携先・総評】

千葉県農政センター農業経営支援課

これまでも新商品の開発や店内装飾の見直しなど、下田農業ふれあい館の活性化にご尽力いただきましたが、今回の新たな試みは、食事以外の付加価値を付けることによるマーケティング強化策として、相談者のみならず施設運営側にとっても有益であったと考えます。